

## キャリア演習 報告書

所属学科	S	学年	2年	学籍番号	15302	氏名	池上蒔辞典
履修項目：(活動した項目番号に○印を付ける) ①. 企業・現場見学と実習                      2. キャリア講習会							
記入日：      2016年      9月      17日				従事した時間		80 時間	

報告内容（成績評価教員に提出する。本報告書の代わりに適宜別紙を添付してもよい。）  
 別紙に記入した

評価教員：所属学科 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

\*評価教員は所属学科の評価取りまとめ担当者に本用紙を提出する。

# インターンシップ報告

2 年 3 組 電子制御工学科

池上 蒔典

2016 年 9 月 17 日

## 1 概要

インターンシップを (株) 広田製作所において、2016 年 9 月 5 日から 16 日のうち 10 日間行った。当レポートは、その体験について記述したものである。

## 2 動機

プログラミング関連の会社に就職したい思っており、インターンシップを希望した。広田製作所は、電子機器の製造・開発を行っている会社であることが分かり、組み込みプログラミングにも興味があったためこの会社に希望した。

## 3 開発する物について

企業秘密な制御基板について、従来は手動でコマンドを送り結果を見ることで、多数の項目のうちから一つずつ基板の値に異常が無いか調べていた。この方式では時間がかかるため、自動的に異常がないかを検出するプログラムを作成した。

開発開始時のシステムは図 1 のようなものであり、開発後には図 2 で示す様なシステムとなる予定であった。

検査すべき項目は 80 項目近くあり、スイッチなどの物理的な操作により、プログラムだけでは検査できない項目を除いても、35 項目あった。今回はこの 35 項目の検査を行うプログラムを作成した。

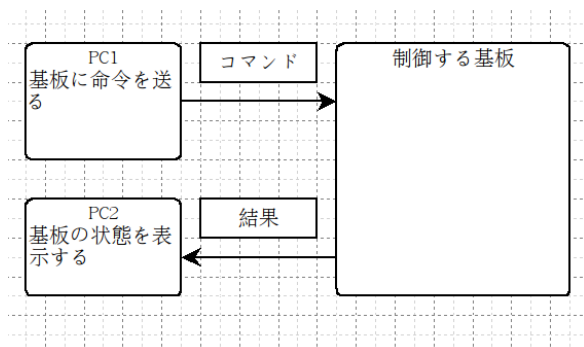


図 1 開発前

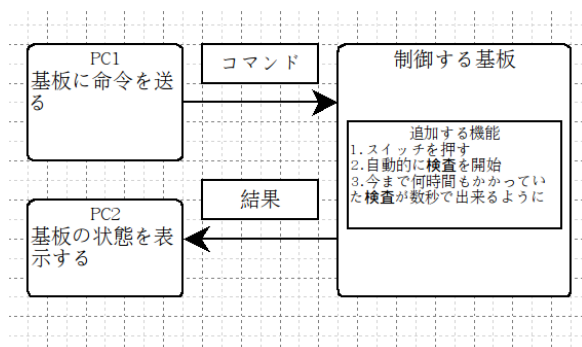


図 2 開発後

## 4 日程

以下にいつ何を行ったかを示す。

- 9/5 制御する基板のソースコードの分析。制御基板の説明が無かったため、あまり解らず
- 9/6 コマンドと結果画面の反応の調査。手動によるテスト
- 9/7 担当者と手動によるテスト。開発環境の整備
- 9/8 基板の検査プログラムの作成を開始。デジタルな値を扱う項目の作成が進む
- 9/9 基板の検査プログラムの作成 論理回路の読み取りに苦労した
- 9/12 基板の検査プログラムの作成。アナログな値を扱う項目でつまづく
- 9/13 基板の検査プログラムの作成。アナログな値を扱う項目の作成
- 9/14 基板の検査プログラムの調整。午後は体調不良で休息
- 9/15 報告書の作成
- 9/16 企業内での研修報告。引き継ぎ

## 5 評価項目について

### 5.1 課題発見・論理的思考

今回は、与えられたソースを読むことが多かったため、どの関数やパラメーターが、どのような結果に反映されるのか常に考えることになった。

目標はすぐに定まったが、開発に当たっては、どれをどうすれば動作はどうなるかを考え、試し続けた。最終的には、1項目ごとに基板を評価する定義を作成し、一見して解りやすいコードを作成出来たと思う

### 5.2 学習と企業活動の関連

主に行った業務はプログラミングに当たり、授業ではまだ扱っていなかった。

電子回路を読み取ることがあったが、電子回路の授業により少しだけは読めた。リレー、トランジスタなどが含まれていて、論理値については、企業の人に聞くまでよく分からなかった。

技術系の部署では、応用的な事は覚えていなくても、基本的なことは覚えておいたほうが良いと思った

### 5.3 チームワーク力

業務時間の内、半分以上が1人での作業となった。

昼食などでは、会社の人と会話をする機会があり、積極的に話しかけていれば良かった。

業務的な内容についての会話では、自分の疑問点や、現状、考えなどを積極的に伝えられた。

### 5.4 リーダーシップ

基本的に、企業の人への指示を仰ぐこととなった。

プログラムのスタイルについて、企業の人と若干の意見の違いがあり、自分の意見は伝えられた。

最終日に企業内で報告会をしたが、説明しようとすると思ってしまう、一対多のコミュニケーション能力の無さを実感した。発表の時は、準備などを怠らないようにしたい。

## 5.5 責任感

高専から自転車で片道 1 時間ほどの所に職場があり、通勤が大変だったが、遅刻することは無かった。

体調を崩すことがあり、会社の人には迷惑を掛けてしまった。体調管理を怠らず休息もしっかり摂るべきだと思った。

生活習慣が普段と異なり、前半は普段寝ている時間に業務を行い、眠くなった。早い時間から睡眠をすれば業務に支障は無かったと思う。後半は若干慣れた。たまに居眠りしていたことは、ここでは記述しないものとする。

## 5.6 キャリアデザイン

基板に問題がないかの検証を行ったが、何回も同じ項目の検証をすることになり 2 回目以降は退屈になった。一方のプログラミングは、常に思考が廻り退屈することがなく楽しかったため、将来は創造的な業務につきたいと思う。

## 6 低学年インターンシップについて

今回は開発系の部署で 2 週間インターンシップを行い、基板を検査するプログラムを作ろうとしたが、会社の人が必要とした機能の全ては実装することは出来ず、中途半端なものとなってしまった。

短期インターンシップは、技術力を高めたり、何かを作ることを目的で行くよりも、会社の雰囲気を掴むことや、働くことについて考えるために行べきだと思った。

低学年のうちから、実際に企業で働くことで、将来の進路についての考えや選択肢は広がると思う

## 7 感想

以前に実際の職場を経験したことが無かったので、今回のインターンシップは有意義なものとなった。

毎日 精神的・体力的に疲れてしまったが、仕事をしている実感により充実感があった。

## 8 最後に

今回のインターンシップに関わって下さった多くの方々に感謝致します